

ノートの取り方

「時間割をつくる」の項目でも触れましたが、授業ではきちんとしたノートを取ることが学びの基本技術です。理解しやすく書かれたノートは、皆さんの学びの質を高めてくれるでしょう。では、どのようなことに注意すれば良いのでしょうか？

01 大学の授業は何が違うのか

まず、大学の授業が高校の授業とどこが違うのかを考えてみましょう。よく言われることですが、高校までの授業は教科書に沿って進められ、ノートは板書を書き写すことが基本です。

これに対して大学での授業は、教員の個性豊かなスタイルで進められます。そして一般には板書することよりも皆さんに語りかける比重の方がずっと大きいのです。大学での授業とは、もはや知識を伝授するだけの場ではなく、むしろ皆さんの問題意識を掘り起こし議論を仕掛けるような、知的な訓練の場になります。そして何よりも、高校の授業のレベルより高く、皆さんが知らない学説や耳慣れない学術用語がポンポン飛び出してくることでしょう。

02 いくつかのヒント

ではどうすればよいのでしょうか？ 実は普通の生活の中にヒントがあります。わたしたちは大事な話を聞きもらすまいとしてメモを取ることがありますね。その時には自然と話の要点だけを書き留める努力をするのではないのでしょうか。耳では一生懸命に相手の話を聞いて理解に努めながら、同時に手は大事なポイントを書き留める作業をやっています。そして理解できなかったことや、本当に大事なことはあとで確認しますね。良いノートを取るコツも実はまったく同じなのです。

講義内容の要点がまとめられているノート

要チェック項目がきちんと書き留められているノート

あとで復習するときに講義内容が思い出せるノート

以上の3点を押さえてさえいれば、ノートの取り方は各自でやりやすい方法を工夫すれば良いのです。もっと大事なことは、その日のうちにノートを見直して講義内容を自分なりに整理することです。でもそれだけでは「何をどこから始めてよいかわからない」という人のために、一例として次のページの図のような方式をご紹介します。



これなら時間がたっても
復習できそうだな。



一冊の完成が楽しみです。



まず紙面を三つに分けます。ノートの左端と下端からそれぞれ5～6センチのところに線を引きます。
線かわりに紙面を軽く折っても良いでしょう。

授業中にノートを取る時には、まずAの部分に書き込むようにします。
あとで整理するために、最初はB・Cの部分は使わないでおきます。

授業が終わったらすぐにまとめます。Aの内容をあらわすキーワードや短い字句を考えてBの部分に書き込みます。
同時に疑問点や要チェック項目を書き出しておくと良いでしょう。

最後に講義内容を一行程度の短い文にまとめてCに書き出します。
上手に整理されたノートでよく復習すれば、レポートや期末試験対策も効率的ですね。

板書を丸写しするスタイルを卒業して、要点をまとめ疑問点を洗い出すノートの取り方を、皆さんも工夫してみましょう。